

避難所の運営は、地域のみんなで！

地震や津波・洪水・土砂災害で自宅が流失・損壊してしまい、自宅で生活できなくなった場合、多くのかたは市が開設する避難所での生活を強いられることになります。

避難所生活において、避難者はお客さんではありません。避難者自身も積極的に避難所運営に関わることが重要です。また、女性や子どもの意見を取り入れるために、女性が運営本部に参加することも重要となります。

●避難所開設・運営の流れ

台風などで一時的に避難所に避難する場合ではなく、一定期間避難所で生活する場合の避難所開設や、運営の流れは表のとおりです。

| | |
|----------------|---|
| 避難所開設 準備・開設 | <ul style="list-style-type: none"> 受入準備(安全点検やレイアウトなど) 避難所の開設、受付開始(名簿づくりなどによる避難者数把握) 居住スペースへの誘導と割り振り |
| 運営体制 づくり | <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会の設置 会議の開催【代表者会議、班別会議(総務班、情報班、被災者管理班、施設管理班、食料物資班、救護班、衛生班、ボランティア班など)】 |
| 避難所運営 | <ul style="list-style-type: none"> 行政との連絡体制の確立 避難所外避難者への対応 物資確保 |
| 避難所の 安定化 | <ul style="list-style-type: none"> ルールの確立 生活支援 常用医薬品の確保 居場所づくり プライバシーの確保 管理(衛生、食事、健康)の徹底 相談体制の確保 こころのケア(遺族含む) |

●避難所運営には日頃の準備・訓練が大切です

避難所は在宅避難者の支援も含め、地域コミュニティの場となります。発災直後には、住民自治による迅速な取り組みが重要となることから、避難所は原則として、住民の自主運営となります。しかし、準備をしておかなければスムーズな避難所運営はできません。市では、避難所運営マニュアルの作成や避難所運営ゲーム(HUG)のサポートを行っています。

一人一人が備えてこい！
防災力UP！鳥羽

総務課防災危機管理室



(25) 1118

vol.80



熊本地震における避難所の様子

先日、子育て支援センターで助産師による赤ちゃん広場を開催しました。テーマは「だっこ」。ママと赤ちゃんにとつて「だっこ」ってなんだろうから始まり、赤ちゃんにとつて心地よく体に負担のない「だっこ」の仕方を教えてもらいました。

その中で、印象的だったお話があつたので紹介したいと思います。赤ちゃんが生まれてから毎日欠かさない「だっこ」。育児中のパパ、ママなら生活の一部として何気なくしていることも多いですよ。「だっこ」をしたり、スキンシップを図ったりすると、親子双方にオキシトシンというホルモンが脳内から分泌されるそうです。

これは、愛情ホルモンとも呼ばれ、分泌されると愛情を深めるだけでなく、イライラや不安をなくし、安らぎや幸せを感じさせてくれると考えられています。「だっこ」をしていると、いとわしい・大好き・かわいといった思いを感じるのほ、そういったホルモンの関係もあるのでしょうか。

ただ、家事や育児、仕事に追われて気持ちに余裕がない毎日では、ゆったりとした気持ちで子どもと向き合うことが難しいかもしれませぬ。そんなときは、ほめるときに頭をなでてあげたり、寝るときにそっと抱きしめてあげたり、体に触れるだけでホルモンは分泌されるそうです。家庭の状況に合わせたちょっとした触れ合い時間を、親子で作っていきましょう。



Vol.53

だっこ

みんなで子育て
だっこでほっと

子育て支援センター
☎ (25) 7225